

# 6月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比<sup>\*</sup>DI値の動き

30年6月のDI値は8指標中、「雇用人員」が小幅ながら上昇。「販売価格」は横這いであり、残り6指標は下落となった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

機械金属業界では、設備投資増加に伴い、一部業況の好転が窺える。また電気工事業では、受注量が順調。家電製品小売業においても、気温の上昇により季節商品の動きが活発であり、売上高が増加したとの明るい報告も寄せられた。

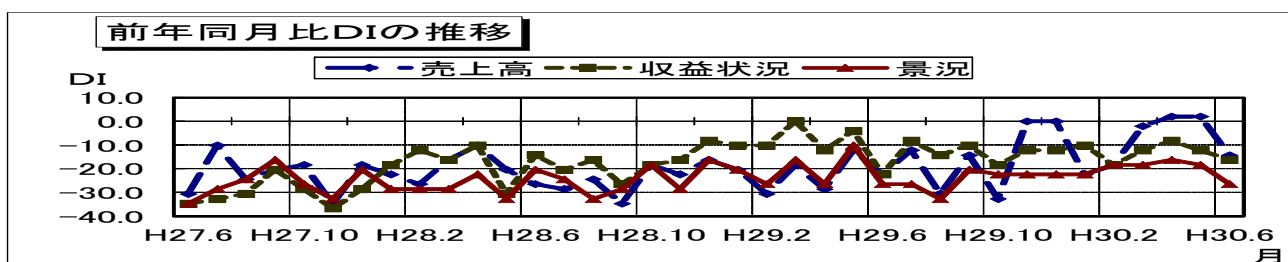
一方、慢性化する労働力問題に加えて、依然として続く原材料高や軽油を初めとする燃料価格の上昇を嘆く声が寄せられた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H29 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	前月比 増減
景況	-26.5	-26.5	-32.7	-20.4	-22.4	-22.4	-22.4	-22.4	-18.4	-18.4	-16.3	-18.4	-26.5	-8.1
売上高	-22.4	-12.2	-30.6	-14.3	-32.7	0.0	0.0	-22.4	-18.4	-2.0	2.0	2.0	-14.3	-16.3
収益状況	-22.4	-8.2	-14.3	-10.2	-18.4	-12.2	-12.2	-10.2	-18.4	-12.2	-8.2	-12.2	-16.3	-4.1
販売価格	-2.0	-6.1	4.1	0.0	10.2	16.3	12.2	20.4	8.2	18.4	10.2	4.1	4.1	0.0
取引条件	-4.1	-8.2	-6.1	-6.1	-4.1	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	-6.1	-4.1
資金繰り	-10.2	-6.1	-8.2	-10.2	-10.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	0.0	-4.1	-8.2	-4.1
設備操業度	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-6.1	-2.0
雇用人員	-6.1	-4.1	-12.2	-12.2	-18.4	-12.2	-14.3	-14.3	-18.4	-20.4	-18.4	-16.3	-14.3	2.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## 【景況関連の報告】

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・前年同月比、みその生産量は108.1%、出荷量は109%となり上向き。しかし主要原材料の米国産輸入米の7月～9月の長期価格は4月～6月に比べて1トン当たり4,200円の増加となり、上昇傾向が止まらない。国内加工用米の価格も上昇しており、収益を圧迫している。大豆については価格、供給とも安定している。

#### <繊維・同製品>

2. 縫 製・雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材の獲得が大きな課題である。売上、収益については、低目安定状態であるものの、国内販売の頭打ちの感は拭えず、特に人口減少とする原因が大きく、将来の景気回復への見通しは厳しい。
3. 縫 製 先月、経済産業省・中小企業庁から4名来社し、現状の各取引先の状況、特に加工代金の決め方についての質問があり、組合を代表して現状報告した。単価の決め方が得意先独断で決定されているので、縫製業界は苦しんでいる。商品は先に上代単価が決まり、その後各社の取り分があり、材料費を差し引き最後に加工代が決定する。非常に矛盾した決定方法である。工場が提出する見積加工代の半分以下で加工するようになっている。良い得意先を持っていない工場では、Tシャツ1枚の加工代金は、缶コーヒーより安い単価で仕事をしている工場もある。このような方法で今まで加工代金を決めてるのが現状で、悪の商習慣である為、業界は低迷している。この商習慣をなくさない限り、縫製業はなくなる。感想として、やっと政府関係者もこの業界の問題点を考えるようになったのかなと思う。これも研修生問題で業界の問題が明るみに出た結果と思う。

#### <木材・木製品>

4. 木 材・原木丸太にとって欠点が出やすく不需要期であり、価格が弱含みに展開していて一般建築製材製品用原木も荷動きが悪く全般に体制変わらず推移している。
5. 製 材・先月に続き、製材品の動きが悪く、好転の兆しが見えず行き先不透明。7～8月は例年に比べ少し落ちそうな気配。
6. 木 材・近頃、著しく仕事量が減少し、業界全体が不安に駆られている。

#### <印刷>

7. 印 刷・6月までは総会など定期的な行事がある。毎年のことではあるが7月になった途端に閑散とした状態になる。紙の卸問屋に聞くと引き続き6月の落ち込みもひどく打つ手模索中とのこと。我々もイベントや行事を追いかけ、個々のお客様からさらなる需要を引き出す、工夫と実行をしていかなければならない。厳しい状況が予想される。

8. 印刷・6月はもともと閑散期であるが、さらに前年同月と比べ受注減となっている模様である。薄紙の出荷は12ヵ月連続の出荷減少、板紙は19ヵ月連続出荷増のようである。これは情報伝達の手段が多様化し、情報伝達系の印刷物は減少した。しかし商品の流通は活発になって、パッケージ関係の印刷物は増加しているということであろう。今後もこの傾向が続くことが予想される。

#### <窯業・土石製品>

9. 生コン・6月は昨年同月に比べて約30%以上の出荷量減少になった。昨年度のこの時期は特需工事の出荷があったが、今期はまだそれほど本格的な出荷は見込めず、梅雨の影響もあり全体的に落ち込んだ出荷量になった。
10. 生コン・6月の出荷数量は、対前年同月比9%の増加となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して官民の既存契約分でのコンクリート打設増加によるものにて、新たな契約増によるものではない。収益については、骨材・セメント価格（原材料）の引き上げ交渉が進んでおり、一部骨材価格の引き上げが決定している。引き上げ結果内容によっては、昨年の生コン価格引き上げ効果が薄れ厳しいものとなる。今後の出荷数量も新規契約にやや陰りあり。県内生コン工場において収益面の見通しは厳しい。

#### <鉄鋼・金属>

11. 鉄鋼・業況感に大きな変化はなく、概ね横這いの動きとなっている。生産動向は振れを伴いつつも緩やかに持ち直しているとも言われているが、そこまでの実感はない。依然、原材料価格の上昇、人材の確保にも苦慮しており、今後の景気動向の一層の好転が期待される。
12. ステンレス・継続して、国内の設備投資は大手を中心に実施されて状況ではある。西日本での地震や大規模な水害等の自然災害により、物流を中心にした影響が懸念される。

#### <一般機器>

13. 機械金属・全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。ただ、顧客の設備投資増加等に伴う業況の好転が一部見られるものの、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、引き続き、原材料の不足、原材料価格等の上昇、従業員の確保難などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

#### 【非製造業】

#### <卸売業>

14. 食糧卸・新米の価格予想が始まった。売り手の希望価格がどこまで通るか。

## <小売業>

15. ショッピングセンター・売上高は全店計94.7%(既存店95.9%)、客数は93.6%(94.3%)。SCは平成6年の6月にオープンしたので、毎年6月に「誕生祭」と称してチラシを配布している。今年は第1弾(6/9:5倍ポイントセール)、第2弾(6/16:お買物券つかみ取りセール)、第3弾(6/23:レシート5,000円につき500円のお買物券プレゼントセール)の3回イベントを実施した。チラシを入れた期間のみでは、第1弾99.5%、第2弾113.8%、第3弾100.0%という結果だった。
16. 電気機器・気温の上昇によりエアコンの動きが順調。冷蔵庫も買換え需要により売上UP。
17. 畳小売業・梅雨とはいえ晴れ間が多く、一般仕事も少なからず出ている。ホテル関係の仕事は夏休みまでというところが多く、現在も進行中。カビも少なくクレームも今年は少ない。割と在庫は動いたが、資材の値上げも通達があり、対応が急がれる。
18. プロパンガス・引き続き、消費機器の交換期限が迫っているので、期限切れの無いよう、順次交換を行い、点検に努める。

## <商店街>

19. 徳島市・商店街内に焼き鳥店が1店舗増えた。駐車場だった箇所コンビニ移転による整備が始まり、9月にオープン予定。(既存の店舗の移動)
20. 徳島市・6月に入って人の動きが止まった。早めのセールを実施し効果を期待するも、例年より暑さが厳しすぎ、全体に動きが鈍い。
21. 阿南市・商店街来街者が少しずつ減少。SCへの流出が否めない。

## <サービス業>

22. 土木建築業・平成30年度業務件数は29年度同様に受注。31年度予算要求はほぼ終わり、部分的に修正、問い合わせがある程度で予算関係は落ち着いた。業務、工事発注の資料作成が忙しくなっているが、工務2課以外は去年度とさほど変わらない。工務2課は、新直轄工事の津田、沖洲地区の工事が多く、去年より多額の工事が発注され、新直轄担当者は忙しい。官職員の減少と、新卒職員のため、業務がなかなかスムーズにいかない。担当技術員に多くの負担がかかっている。
23. 自動車販売整備業・登録自動車(普通車)の新車登録台数は対前年同月比-14.6%の1,408台、中古車は-13.6%の457台、合計では-14.4%の1,865台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-3.7%の1,224台、中古車-8.7%の454台、合計は-5.1%の1,678台である。登録自動車(普通車)・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-10.2%の3,543台と減少。売上高、収益状況ともに悪化。新車販売台数は普通車が14.4%減、軽自動車は5.1%減。車検や点検整備等のサービスに関する収益状況も軽自動車9.2%減、普通車24.6%減。販売台数は過去5年間で見ると平均的であるが、厳しい状況。
24. 旅行業・6月は特に変わったことはなかった。

## <建設業>

25. 建設業・公共工事発注が平準化されていない。

26. 電気工事業・新設住宅口数は910件であり、対前年比421.2%と大幅に増加した。

27. 板金工事業・仕事量が減少した。

<運輸業>

28. 貨物運送業・一般貨物輸送は、例年6月は低調だが今年も同様に低調で推移。一方生鮮野菜・青果関係は時期的に毎年、量的には増加する。軽油平均単価は前月比、若干の値下がりとなったが、国際原油市場では政治的な要因により、今後は不透明である。

29. 貨物運送業・軽油価格が上昇し、事業者を悩ませている。6月1日より、点呼時に「睡眠状況の確認」を行うことが追加された。居眠り運転に起因する事故を防止し、働き方改革を進める観点から、運転者の睡眠時間の確保について意識を高めるため、改正されたものである。また6月1日より、標準引越運送約款が改正され、解約・延期手数料の改正等が行われた。